

第1節 資料館における展示・情報公開活動

1. 第44回企画展『美濃ヶ浜遺跡～古代の製塩と祭祀～』

令和4年度の企画展は、『美濃ヶ浜遺跡～古代の製塩と祭祀～』と題して、山口市秋穂に所在する山口県で最初に発見された製塩遺跡である美濃ヶ浜遺跡にスポットをあてて展示を企画した。

美濃ヶ浜遺跡は、大正14(1925)年に官立山口高等学校生によって発見されたが、遺跡発見当初は山口県内初の縄文遺跡として知られており、製塩遺跡としては認識されていなかった。

その後、長く年月を経た昭和35(1960)年に山口大学古代遺跡調査室が中心となって結成された「山口市美濃ヶ浜遺跡学術調査団」が学術調査を行い、その結果、美濃ヶ浜遺跡が古墳時代から飛鳥時代にかけての製塩遺跡であることが確認された。しかし、出土類は関係各所に分散して保管されることとなり、正式な報告書も刊行されないまま現在に至っている。

また、昭和39(1964)年に本学文化会公認サークル考古学部によって発掘調査が行われているが、これについても調査成果についての報告はなされていない。

展示に際し、当館が所蔵する資料を精査したのち、本学文化会考古学部、山口市教育委員会、山口県立山口博物館の協力を得て各所蔵資料を確認した。文化会考古学部に残されていた当時の調査フィルムや調査記録写真に映り込んでいる山口市教育委員会が保管する土器など、新たに確認することができた資料も含めて展示を構成した。また、当館と山口市教育委員会、山口県立山口博物館がそれぞれ所蔵する子持勾玉を初めて同時公開した。

調査・展示に際し、ご協力を賜った本学考古学部、山口市教育委員会、山口県立山口博物館には改めて感謝したい。

展示期間は令和4年8月6日(土)から令和4年10月14日(金)で、会期中181名の方々に観覧いただいた。



写真1 企画展ポスター



写真2 展示の様様

2. 山口県大学ML連携特別展『山口大学追想録～遺跡写真に見る昔と今～』

山口県内の大学博物館および図書館が、共通テーマに沿って各大学や館の特性を生かした学術資料または教育研究成果の展示を開催するという体制での10年目を迎えた山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展であるが、令和4年度共通テーマは「追想」に決定され、当館を含め12大学15館が参加した。

当該年度には、当館の長年の課題であった本学吉田構内統合移転時の遺跡調査写真フィルムのデジタルアーカイブを実施した。昭和41(1966)から46(1971)年にかけて撮影されたものであるため、カラーネガフィルムの大多数はすでに劣化が進行していたものの、モノクロネガフィルムは比較的良好に画像が遺存していたことから、特別展共通テーマにあわせ、デジタルスキャンした画像の一部を展示にて公開することにした。

展示では、撮影時のカメラの位置やレンズの方向を特定し、現在の吉田構内の景観との比較を試みた。また、フィルムの余りで撮影されたとみられる、当時の学生たちが発掘調査中に休憩する模様や、ビアガーデンでの遊興風景なども、学生生活の貴重な画像情報として公開した。

令和4(2022)年10月31日(月)から令和5(2023)年1月31日(火)の会期を通じて、170名の方々に観覧いただいた。展示コンセプトを「写真に見る」としたことから、通常より実物資料展示数を控えたが、アンケート調査では「小さい展示室ながらも、資料や解説が充実しており、楽しめました」「調査をすることになった背景等も知ることができて興味深かった」「私はS45入学ですが、懐かしさでいっぱいになりました!」「昔と今を知る取り組みに拍手!」などの声が寄せられた。

令和2(2020)年度以降、梅光学院大学博物館の閉館により、当事業への博物館参加は当館のみとなっている。梅光学院大学博物館は、平成22(2010)年度の大学博物館連携事業から山口県大学ML連携事業の発足、発展までともに歩んだ盟友だった。当事業の当初目的の一つは、「大学図書館(文字研究)と大学博物館(モノ研究)は同等に必要という認識を学内外に広めること」、そして「大学博物館設立の気運を高めること」であったが、大学博物館が必要という認識すら風前の灯火に思われる。事業を立ち上げた者として責任を感じるが、残された大学博物館施設としての歩みを全うしたい。



写真3 特別展ポスター



写真4 展示の様様

3. 第9回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催

当館の共催により、展示室にて本学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』が開催された。開始当初は前期・後期の2部構成で開催されていたが、事業規模の縮小によって前回より1部構成となっている。

令和5(2023)年3月22日(水)から6月16日(金)の会期で開催され、当館は当該年度に保存処理を実施した古代の木製品を公開した。そのほか、文書資料として「東亜経済研究所所蔵貴重資料のデジタル撮影及びそのデータの保存」(経済学部東亜経済研究所)、鉱物・岩石資料として「現地の地質をこの場に再現してみよう～南極・ひだ・ヒマラヤ～」(理学部地球科学標本室)、商品資料として「石川県立工業高等学校作結晶釉花瓶」(経済学部商品資料館)、美術資料として「小林和作《室戸岬》」(教育学部美術教育教室)が展覧された。

約3ヶ月の会期中、792名もの方々に観覧いただいた。入館者増の要因としては、同年5月8日から新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことを受け、入館の諸制限を廃止したことが大きいと思われる。昨年度、一昨年度に比して新入生ガイダンスでの利用や授業での活用が復活したことが大幅な入館者増に繋がったのであろう。

また、会期中の5月18日(木)が「国際博物館の日」であることから、アンケート調査に協力いただいた先着100名様に、2023年のテーマ“Museum, Sustainability and Well-being”を記した再生不織布製オリジナルトートバッグのプレゼントを実施したが、アンケートの回収は94枚(回収率12%)に止まり、次年度以降に課題を残す結果となった。

アンケート調査の結果を見ると、印象に残った展示物としてはアンモナイトや小林和作《室戸岬》、結晶釉薬花瓶など視認性の高い資料に票が集まった。今後希望する展示内容としては、歴史民俗系では「山口の祭りや信仰」「山口盆地の古墳」、図書系では「山口出身の文豪の資料展」、自然史系では「山口県内でとれる綺麗な石」、大学史系では「山口講堂関係」「山口大学出身者の展示」など、郷土を素材とする声が多く寄せられた。

全学的事業の可視化は説明責任を果たす上では必須であることから、当館は今後も全面的にその活動を支援していきたい。



写真5 展示ポスター



写真6 展示見学の様様

4. 令和4年度展示アンケート集計

令和4年度 第44回企画展 美濃ヶ浜遺跡～古代の製塩と祭祀～
アンケート集計

開催期間 令和4年8月6日～10月14日

入館者数 184

内訳	一般	75	41%
	学生	96	52%
	教職員	13	7%

アンケート総数 13
アンケート回答率 7%

1.当館の展示をご覧になったのははじめてですか？

はい		6	46%
	2回目	1	
いいえ	3回目	3	54%
	20回以上	1	
	無回答	2	

無回答 10

2.今回の展示にいらっやっきたきっかけはなんですか？

山口大学Webで知った	1
たまたま館の前を通りかかった	4
大学内外のポスター・チラシで知った	4
知人から聞いた	1
その他	3

3.あなたが1年間に博物館・美術館を訪れる回数を教えてください

0回	1
1回	1
2回	3
2～3回	1
3回	1
5回	1
5～6回	2
6回	1
10回	1
無回答	1

4.今回の展示で、一番印象に残った展示物を教えてください

子持勾玉	5
製塩の様子を再現していた模型	2
石製模造品(有孔円板)	1
製塩土器	1
文字に残る古代の塩作り	1
調査歴	1
全て どれも面白い	1
無回答	1

5.遺跡の見学をしたことはありますか？あれば遺跡名を教えてください

宇部の遺跡	1
綾羅木郷遺跡	1
土井ヶ浜遺跡	1
周防鑄銭司跡	1
吉野ヶ里遺跡	1
遺跡名は不明	1
ない	7

6.「こんな企画展を開催してほしい」などご意見・ご要望をお聞かせください

山口県の他の遺跡に関する企画展を開催していただきたいです
古代人の衣服
1/1の製塩土器の復元模型
今回のような行きやすい所の遺跡の展示
生活を想起させるようなものがあれば…
山口県の地酒

無回答 7

7.山口大学にあるものであなたが「これはスゴイ！」と思う物はなんですか？

埋蔵文化財資料館
やはり吉田遺跡関連の遺物は個人的に興味深いものだと思っております(大学の下に遺跡があるというのもスゴイと感じます)
図書館に学習の役に立つ本がたくさんあったこと
広いお庭。山々と一帯になってすばらしいです
ニシキゴイが多く泳ぐ池
自然！緑が多く「これは何の植物だろう」とワクワクします

無回答 7

令和4年度山口県大学ML連携特別展 共通テーマ『追想』
アンケート集計

開催期間 令和4年10月31日～令和5年1月31日

入館者数 170

内訳	一般	55	32%
	学生	113	66%
	教職員	2	1%

年齢

大学生	28	
一般	30代	1
	40代	3
	50代	3
	60代以上	10
無回答	1	

複数回答あり

アンケート総数 44
アンケート回答率 26%

I. 今回の企画展にいらっやっきたきっかけはなんですか？あてはまるところにいくつでも✓をいれてください

ポスター・チラシ	8
たまたま前を通りかかった	26
友人・知人から聞いた	4
授業	4
その他	2

II. どちらからいらっやいましたか？

大学内から	学生	25
	教職員	3
	その他	1
大学外から	市内	5
	県内	3
	県外	7

III. 展示物はいかがでしたか？

展示物	非常に良い	11
	良い	27
	普通	6

解説	非常に良い	9
	良い	20
	普通	8
	無回答	7

IV. 当会場で一番印象に残った展示物、興味のある展示物はなんでしたか？

縄文土器 深鉢	1
磨石	3
石鏃	1
縄文遺跡	1
弥生土器 大甕	8
弥生土器 高坏	1
土師器	2
土師器 壺	1
土師器 高坏	1
高坏	1
須恵器	2
須恵器 坏	1
石製作業台	5
石鍋	1
発掘当時と現在の写真が対比してあった。いいアイデアだと思った	1
第2学生食堂の調査パネルで当時の考古クラブの学生の写真がありますが、中に今の吉母の施設館長、松下孝幸氏ではないかと思われる姿を発見！	1
出土品	1
実物	1
some potteries	1
発掘調査時の風景写真	1
昔の学生	1
everything	1
遺跡が学内に大量にあったこと(展示全般)	1
当地に古い遺跡があったこと。発掘の状況等興味深かった	1
展示パネルが分かりやすくて良かった	1
もう少し遺物の展示があった方が良かったのでは	1
無回答	4

複数回答あり

V.この企画は山口県内のML連携事業です。大学の博物館・図書館に今後どのようなことを期待しますか？

大学博物館		大学図書館	
貴重資料公開	24	貴重資料公開	15
専門的資料閲覧	8	専門的資料閲覧	17
大学の研究紹介	10	大学の研究紹介	10
無回答	5	無回答	7
複数回答あり		複数回答あり	

VI.この特別展に関し、ご意見やご感想等がございましたらお聞かせください。

今昔の山口大学を比べてみるだけでも面白い。それに山口大学の遺跡としての側面が知れて面白い。もし山口大学内の吉田遺跡のすごさがわかりやすくあるのなら、ぜひそれが知れるようにして頂けると、実際に歩いてみようか、みてみようかと思えると感じました！

学生

山口大学にこのような貴重品が見つかることはすごいなと感じました

学生

小さい展示室ながらも、資料や解説が充実しており、大変楽しめました。また次回の企画展示も楽しみにしております

学生

調査をすることになった背景等も知ることができ興味深かった

学生

昔大学があった場所について知られてたのしかったです

学生

弥生時代の土器を発掘していたとは知らず、驚いた。調査報告楽しみにしています！

学生

出土した遺物の”どこがすごい”どこがめずらしい”という説明がもっとあって良かったと思う

学生

また発掘はしないのですか？

学生

今回私は初めて学外から来させてもらったのですが、このような文化財資料館があるとは知らず驚きました。縄文・弥生時代の土器は特にすばらしかったです

県外学生

You should add some more items

30代学生

Description should be in English

40代学生

カケラだけでなぜ鍋と判断できたのだろう…とふしぎに思いました

40代

校内遺物の保存と展示。昔を今にする取り組みに拍手！！

60代以上

私はS45入学ですが、懐かしさでいっぱいになりました！！

60代以上

これからの企画展にも期待しています

60代以上

気軽に立ち寄れて良かった。以前来た時より、資料も増えているし、整理されている

60代以上

当初の発掘の正式な報告書を期待します

60代以上

ここの場所が遺跡のある土地とは知らなかった。貴重な物を大切に保管してあることに感銘した

不明

無回答26

第9回山口大学所蔵学術遺産継承事業成果展『宝山の一角』アンケート集計

開催期間 令和5年3月22日～6月16日

総入館者数 792名

内訳	一般	116	15%
	学生	645	81%
教職員	31	4%	

アンケート回収数 94
アンケート回答率 12%

1.当館の展示をご覧になったのははじめてですか？

はい	55	59%
いいえ	2回目	12
	3回目	11
	4回目	4
	5回目	4
	6回目	1
	10回目	1
	15回目	1
	?回目	5

41%

2.今回の展示にいらっしゃったきっかけはなんですか？

資料館webで知った	2
山口大学Webで知った	8
たまたま館の前を通りかかった	17
大学内外のポスター・チラシで知った	19
授業の課題	23
知人から聞いた	0
その他	25

3.あなたが1年間に博物館・美術館を訪れる回数を教えてください

0回	7
0～1回	5
1回	22
1～2回	5
1～5回	1
2回	15
2～3回	5
3回	10
3～4回	1
4～5回	2
5回	8
6回	1
8回	1
10回	6
14回	1
15回	1
24回	1

5.山口大学の印象を漢字一文字で表すと何になりますか

山	18
緑	9
広	5
知	5
豊	2
多	2
学	2
歴	2
和	2
楽	2
普	2
平	2

複数回答あったもの

4.今回の展示で、一番印象に残った展示物を教えてください

館物・岩石資料WG	
アンモナイト	11
鉱物・岩石	6
南極の石	3
黒雲母片岩	3
黒色泥岩	3
山口県地質図	3
ヒマラヤ関連	2
綿状片麻岩	2
眼球片麻岩	2
ペグマタイト	2
花崗岩	1
藍晶石ザクロ石	1
黒雲母角閃石	1
電気石花崗岩	1
褶曲片麻岩	1
飛騨帯の岩石	1
地層	1
44	
考古資料WG	
木製品	3
壺	3
壺書土器	2
はにわ(おもちゃ)	2
吉田遺跡古代官衙関連資料	1
都城系土師器	1
須恵器と土師器	1
発掘資料	1
土器	1
ヒノキについて(パネル)	1
16	
商品資料館WG	
結晶軸(一輪生)	12
美術資料WG	
室戸岬(小林和作)	14
文書WG	
東亜経済研究所蔵資料	5
文書ワーキンググループの取り組みについて(パネル)	2
7	
無回答	3

複数回答あり

5. 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムとの連携企画展

『吉田遺跡展～地方豪族の登場と官衙成立の一事例～』

当館は平成27(2016)年6月に山口県立山口博物館(以下山口博物館と表記)と連携協力協定を締結した。協定の目的は主として山口博物館が開催する考古学分野の講座や展示を支援するためのものであり、継続的に毎年開催している講座『古代ウォーク』では、地域に眠る様々な考古資料に焦点をあてるなど多くの成果を生み出してきた。

その成果を受け、さらなる地域連携と考古学情報公開の活性化、研究の深化を目的として、令和4(2022)年3月末に下関市豊北町に所在する土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム(以下「人類学ミュージアム」と表記)と連携協力協定を締結することとなった。人類学ミュージアムは形質人類学と民俗学、動物考古学専門の学芸員で構成されており、考古学専門のみで構成される当館が連携することで、より多面的な活動の展開が期待される。協定では、年に1回協議会を開催することが定められ、締結後の最初の事業として、本学吉田構内から遠く離れた下関市豊北町にて、吉田遺跡の最新調査成果を展示することとなった。

山口市平川地区吉田への本学統合移転工事中に発見された吉田遺跡は、教官であった小野忠熙氏や当館設立前に埋蔵文化財保護活動を担っていた山口大学吉田遺跡調査団による発掘調査成果により、当初は弥生時代から古墳時代の集落遺跡として注目を集めていたが、近年の調査では古代官衙に関連する遺構や遺物が多数発見されていることから、官衙遺跡としても注目されるようになってきている。その調査成果を受け当館では、平成20(2008)年度に『謎の官衙～山口大学1,200年の時空を越えて～』、平成25(2013)年度には『地方豪族と官衙の出現』と題して吉田遺跡の古代に焦点を当てた企画展を開催しているものの、その後の調査で出土した古墳時代から古代の遺構・遺物に関しては、総括的に展示で取りあげることがなかった。そこで人類学ミュージアムで開催する展示では、吉田の地に古代官衙が成立する背景を主題とすることにした。

人類学ミュージアム企画展示室にて、令和4(2022)年9月6日(火)から11月27日(日)の会期で開催した展示では、吉田遺跡の通史的な考古資料展示のほか、山口市教育委員会の協力を受け、周辺遺跡の出土品を展示することにより、平川地区の古墳時代集落・墳墓の状況から吉田に官衙が設けられる経緯を考察し、官衙存在の根拠となる木簡、墨書土器、鈔帯など各種資料を多数公開することとなった(写真10～12)。遠方での展示の準備には、資料の移動を含め多少の困難を伴ったが、人類学ミュージアム学芸員各氏の周到な計画・協力により、余裕を持って開催日を迎えることができた(写真8)。当館展示室(35㎡)に比して人類学ミュージアム企画展示室(144㎡)は空間的な余裕が大きいことから、解説パネルを含め内容の濃い展示を構築することができたと感じている。

会期中に会場を訪れることはできなかったが、3ヶ月弱の期間に3,990名もの方々に観覧いただいたとの報告を受け、人類学ミュージアムの集客力に驚かされた。今後の連携事業の展開が楽しみとなる初年度の活動であった。



写真7 連携企画展ポスター



写真8 設営風景

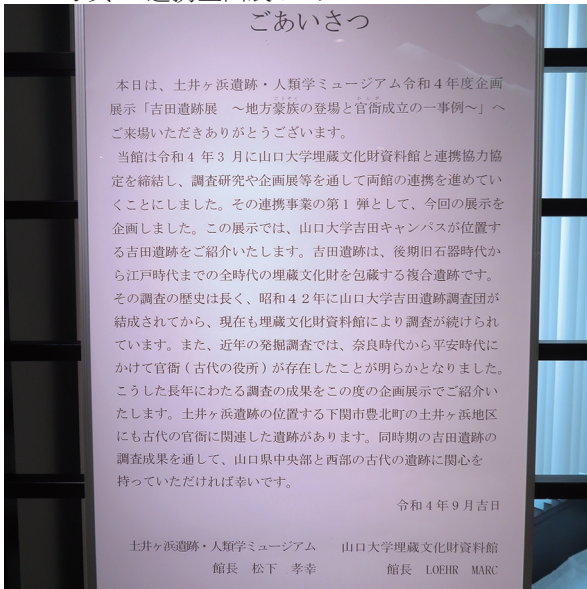


写真9 挨拶文



写真10 展示風景①



写真11 展示風景②



写真12 展示風景③

6. 令和4年度刊行物

1. 『山口大学埋蔵文化財資料館年報－令和元年度－』

令和元年度に実施した資料館活動報告と構内遺跡発掘調査概報を所収する年報を刊行した。活動報告としては、展示・情報公開活動として企画展と山口県大学ML連携特別展のほか、2冊の当該年度刊行物を報告した。社会教育活動としては、山口博物館との連携により実施した講座1件、宇部市東岐波ふれあいセンターにて共同開催した展示と山口博物館で共同開催した展示を報告した。

発掘調査に関しては、本発掘調査1件(白石)、予備発掘調査1件(吉田)、立会調査11件(吉田8・白石3)の成果を報告した。本発掘調査1件は、教育学部附属山口小学校改修(EV・渡り廊下)工事に伴うもので、時期不明の埋没河川1条を確認した。予備発掘調査1件は学生会館新営工事に伴うもので、弥生時代の河川1条を検出した。

付篇として、横山による「山口市大内御堀の採取遺物」「吉田遺跡古代埋没谷出土の木製品(I)」と吉田生物研究所による「平成18年度吉田遺跡出土木製品の樹種同定」を所収している。

2. 『山口大学構内遺跡調査研究年報XV』

当年報は当館設立以降から平成14年度までの構内遺跡調査成果を報告するものである。令和4年度は、平成7年度に実施した調査報告を所収する年報を刊行した。事前調査2件(吉田2)、試掘調査7件(吉田5・小串1・常盤1)、立会調査9件(吉田8・白石1)の成果が掲載されている。

吉田構内における公共下水布設に伴う試掘・事前調査では、弥生時代から古墳時代の溝1条、弥生時代前期の土坑21基のほか、縄文時代の河川1条、弥生時代から古墳時代の河川2条などを確認した。農学部RI実験研究施設新営に伴う試掘・事前調査では、中世の井戸1基と近世以降の大溝1条を検出している。

そのほか、田畑による「山口県熊毛郡上関町祝島 山惣津遺跡出土の須玖式系土器」と題する付篇を所収している。

3. 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第33号『てらこや埋文』

平成17(2005)年から発行している速報性を重視した広報誌であり、平成23年度以降は年度末に1冊の刊行となっている。巻頭頁に当該年の発掘調査成果、2-3頁に展示活動報告、4-5頁に遺跡めぐりサイクリングコース「秋吉台1周」の紹介記事、6頁に山口博物館との共催事業「古代ウォーク」実施報告、7頁に「資料館この一品」として吉田遺跡出土の円面硯、8頁に令和4年度の全活動記録を掲載している。



写真 13 令和4年度埋蔵文化財資料館刊行物